



緑肥・緑化の部屋 4

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

今回は実践編として、個別の野菜について、時期ごとにはどのような緑肥を利用すればよいかを紹介します。

Q 秋にダイコンを播種しようと思っっていますが、害虫の食害を防ぐには、今から何をやっておけばよいでしょうか？



↑キスジノミ
ハムシ成虫

A 最近、「キスジノミハムシ」という害虫が各地で増えています。この害虫は幼虫時には土中に生息し、ダイコンなどの根部を食害します。また成虫は、ダイコンやコマツナなどの葉を食害し、各産地では深刻な問題となっています。

奈良県農業総合センターでは、「ネグサレタイジ」などのエンバクの野生種を利用することによって、ダイコンへのキスジノミハムシの被害軽減が報告されています。その理由は、エンバク野生種の茎葉に含まれている成分に、キスジノミハムシに対する忌

避効果があるからではと考えられています。

例えば9月まきのダイコンの前作としてはその前の5～6月に「ネグサレタイジ」を播種し、ダイコンの播種の約1カ月前までに刈り取り、ロータリーなどですき込むというものです。

根菜類ではキスジノミハムシのほかに、センチュウ被害も多発しますが、「ネグサレタイジ」にはキタネグサレセンチュウの密度抑制効果もあります。

今年の秋まきダイコンの前作には、「ネグサレタイジ」をぜひご利用ください！

栽培時期によるエンバク作付け後のキスジノミハムシの被害抑制効果 (奈良県農業総合センター)

播種日	調査日	前作物	被害株率 (%)	被害度	防除価	根長 (cm)	根重 (g)
5月12日	7月1日	エンバク	56.3	31.3	67	25.5	882
		作付けなし	100.0	95.8		25.0	823
8月23日	10月30日	エンバク	100.0	85.0	14	33.9	1,233
		作付けなし	100.0	98.3		30.8	967
9月22日	11月28日	エンバク	25.0	12.5	72	35.0	1,584
		作付けなし	77.8	44.4		36.3	1,513

防除価 = (無処理区被害度 - 処理区被害度) / 無処理区被害度 × 100



前作なし



前作エンバク



キスジノミハムシの密度抑制に！ キタネグサレセンチュウの密度も抑制！

えん麦 ネグサレタイジ

播種期：中間地・暖地…3～11月
冷涼地…5月～8月上旬
播種量：8～10kg/10a
条まきかバラまきし、1cm程度の覆土をして鎮圧する。
※タネが細長いので、しっかりと鎮圧することが重要です。



↑ネグサレタイジ 1kg袋